

# ウナギ

*Anguilla japonica*

ウナギ科



十勝川でとれたウナギ  
(写真提供：折戸 聖 - 株式会社 北開水工コンサルタント)

## 名前の由来

① 12世紀頃までは「ムナキ」と呼ばれ後に「ウナキ」に転じ、17世紀以降に「ウナギ」との呼び名が一般化したらしい。「ムナキ」の由来としては、「棟木(むなぎ)」「胸開き」「胸黄」などの説があるらしい。②「ウヲナガキ(魚長)」の意味。③「ウネル」からの転で、「キ」は魚を表す接尾語。漢字名：鰻

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

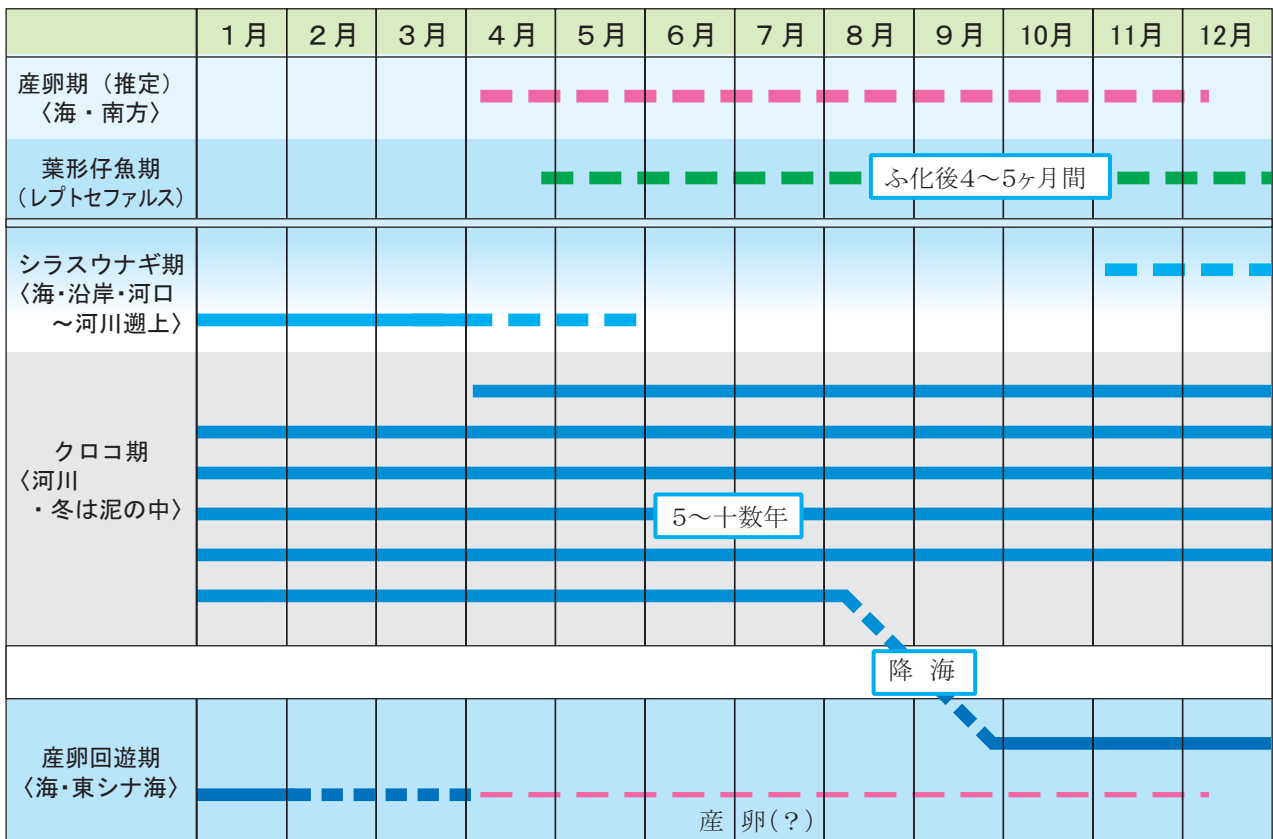
全長約100cm、背側は暗色で、腹側は白色。特別の斑紋はない。産卵のために降海するものは、背側とひれが黒く、

腹部が銀白色になり、胸ビレは大きく目立つようになる。

## 類似種と見分け方

(四国以南にオオウナギがいるが、オオウナギは体色が茶褐色で不規則な斑点があることや、背ビレ起点-肛門間の長さがウナギが全長の約9%、オオウナギが約16%であることから区別できる)

## 生活サイクル



## 一 生

淡水で生活した後海へ下って産卵をする。産卵は南方海域、フィリピン東方からマリアナ海域付近だと推定されている。産卵習性については不明ことが多い。柳の葉のような形をした幼生は、ふ化後4～5ヶ月（推定）でシラスウナギ

に変態し、河口や沿岸に現れる。11～4月にかけて川を遡上する。

川で5～十数年暮らした後、秋頃に海へ下る。

## 生息環境・分布

主として河川の中・下流域や河口域、湖にいる。時には川の上流域や内湾などにも生育。

**分布**：朝鮮半島南・西部沿岸域、中国大陸、ベトナム北部、海南島、台湾島、ルソン島（フィリピン）に分布。

国内では、北海道以南に分布。

北海道内では太平洋側は日高地方以南、日本海側は石狩川

以南。太平洋側の苫小牧周辺河川ではしばしば確認される（妹尾優二）。

十勝地方では、平成14年6月に十勝川下流部で1匹確認された（河川水辺の国勢調査－北開水工コンサルタント）。十勝初確認。

## 食 性

河川遡上後、春から秋に水生昆虫類、小型魚類、貝類、エビ類、カエル類など。夜間に摂餌。冬（水温10℃以下）に

は泥にもぐりほとんど摂餌しない。

## 繁殖生態

産卵のため降海し、産卵場はマリアナ諸島西方海域の深海と推定されている。産卵習性は未解明なことが多い。産卵

期は4～12月と推定されている。

## 他生物との関わり

不明。

## 興味深い話

■食用。淡水魚の総養殖生産量の40%を占める。天然物は全体の10%程度。かつては焼いた煙を防虫に利用し、民間薬としても用いられたという。

■美幌・屈斜路などのアイヌ語では「タンネ・チュプ」（長い魚の意）。

■ふ化後の仔魚は、その形から「葉形仔魚（レプトセファルス）」と呼ばれ、4～5ヶ月（推定）でシラスウナギ（無色透明、ウナギ形）に変態し、河口や沿岸に現れる。

■日本でのシラスウナギの遡上盛期は1～3月（10～6月）で、夜間浮上して遡上する。シラスウナギはやがて「クロコ」に成長するが、この時期のウナギはどんな障害物をもものとはせず、上流へ上流へと、時には川と直接つながっていないため池にまで遡上するという。

■養殖は接岸したシラスウナギをとって、人工池でおこな

われる。人工ふ化までは成功しているが、葉形仔魚（レプトセファルス）の餌についてはまだわからないことが多く、シラスウナギに変態させることはできていなかった。しかし、平成15年7月、農水省関係の独立行政法人、水産総合研究センターがシラスウナギの養殖に世界で初めて成功したと発表した。産卵や仔魚まで成長させる手法は確立済みのため、ウナギの完全養殖のめどが付いた。同センターは10年後の実用化を目指す。（毎日新聞2003年7月10朝刊）

■十勝は生息域に入れられていなかったが、平成14年6月、河川水辺の国勢調査において、十勝川下流部で20cmほどの個体1尾が捕獲された（北開水工コンサルタント）。

## 配慮事項

河川内の構造は、倒木や植生などによって構成され、かつ、河床が泥質からなる環境が必要となる。河岸から木の根が

露出するような所も良好。（妹尾優二）

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社、1989

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦 保育社、1990

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社、1984

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

★ 妹尾優二：(株)エコテック、流域生態研究所

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ